

上杉家範并家政條記

宮島誠一郎藏

早稲田大学図書館

文書27

M 68

2

文書 27
M68
2

家
範

上
杉
家

勅書

朕惟フニ華族勳胄ハ國ノ瞻望ナリ宜シク
授クルニ榮爵ヲ以テシ用テ寵光ヲ示スヘ
シ文武諸臣中興ノ偉業ヲ翼贊シ國ニ大勞
アル者宜シク均シク優列ニ陞シ用テ殊典
ヲ昭ニスヘシ茲ニ五爵ヲ叙テ其有禮ヲ秩
ス卿等益々爾ノ忠貞ヲ篤クシ爾ノ子孫ヲ
シテ世々其美ヲ濟サシメヨ

明治十七年七月七日

誓書

臣茂憲世爵ノ榮ヲ賜ヒ併セテ

聖勅ノ辱キヲ拜ス敬テ

皇祖ノ神靈ニ奉對シ仰テ

盛旨ヲ欽ミ益々忠誠ヲ致シ永ク

皇室ノ尊嚴ヲ扶翼センコトヲ誓フ庶幾ク

ハ

神明此レヲ鑒ミ給ハンコトヲ

明治十七年七月七日

從四位伯爵上杉茂憲

不肖茂憲幸ニ聖世ニ際會シ祖宗ノ餘烈ニ

賴リ華族ノ班ニ列シ世爵ノ榮ヲ荷フ恐悚

何ソ堪ヘン謹テ明治十七年ノ

聖勅ヲ捧讀スルニ華族ノ任タルヤ國體ヲ

重ンシ忠貞ヲ篤クシ上ハ

皇室ノ干城トナリ下ハ士民ノ表範トナリ

國家ト社會トノ秩序ヲ維持シ常ニ中正ヲ

失ハサラシムルニ在リ而シテ後世子孫ヲ

シテ之ヲ繼カシメンコトヲ欲セハ宜ク家

範ヲ設ケテ之ヲ遵守セシムヘシ是ヲ以テ

茂憲不肖ヲ顧ミス政府ノ法典ト祖宗ノ遺訓トヲ參酌シテ家範ヲ草シ深思熟考スルコト十有餘歲稿ヲ更フルコト凡ソ七回尙ホ遺漏アラシコトヲ恐レ舊藩士數名ヲシテ反覆審議セシメ二十八年十月ニ迄テ成ル全篇七章分テ五十三條附則一條トシ冠スルニ十七年ノ

聖勅及ヒ當時捧呈スル所ノ誓書ヲ以テス又別ニ家政條規ヲ設ケテ其節目ヲ明ニセリ乃チ虔テ祖宗ノ靈ニ告ケ之ヲ永遠ニ傳

ヘントス後嗣タル者能ク此家範ヲ遵守セハ庶幾クハ

聖旨ニ違ハス祖訓ニ負カス永ク忠貞ヲ國家ニ効シ以テ家聲ヲ墜サルヲ得ン

明治二十九丙申年三月

從三位勳三等伯爵上杉茂憲 識

家範

第一章 要領

第一條 我家ハ祖宗ノ遺法ヲ守リ

皇室ヲ翼戴シ忠孝ヲ重シ勤儉ヲカムヘシ

第二條 我家ハ祖宗ノ祭祀ヲ愍ミ一家親族ノ和親ヲ保ツヘシ

第三條 我家ハ舊米澤藩士民ニ對シ永遠ニ其舊誼ヲ厚フスヘシ

第二章 家督相續配偶

第四條 家督相續ハ左ニ定ムル所ノ順序ニ依ル

第一 嫡長男子

第二 嫡長男孫

第三 嫡長男曾孫

第四 嫡長男玄孫

- 第五 嫡出男玄孫
- 第六 庶出男玄孫
- 第七 嫡出男曾孫
- 第八 庶出男曾孫
- 第九 嫡出男孫
- 第十 庶出男孫
- 第十一 嫡出男子
- 第十二 庶出男子
- 第十三 女玄孫ニ婿養子ヲ配ス
- 第十四 女曾孫ニ婿養子ヲ配ス
- 第十五 女孫ニ婿養子ヲ配ス
- 第十六 女子ニ婿養子ヲ配ス

第十七 兄弟

第十八 伯叔父

第十九 姉妹ニ相續人ヲ配ス

第二十 伯叔姑ニ相續人ヲ配ス

第二十一 以上定ムル所ノ嫡庶子孫兄弟伯叔父及女子孫姉妹

伯叔姑皆家族中ニ在ラサルトキハ血縁者中ニ就キ相續人ヲ
選定ス血縁者中選フヘキ男子無キトキハ女子ヲ選ヒ之ニ配
スル相續人ヲ選定ス

第五條 前條第五ヨリ第十二ニ至ルハ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第十三ヨリ第二十二至ルハ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス

第十三ヨリ第二十二至ルノ順序ハ止ムヲ得サル場合ニ於テ之
ヲ變更スルコトヲ得

第六條 第四條第十三以下ノ場合ニ於テハ親族會及家政相談會
ノ審議ヲ經テ之ヲ定ム

第七條 家督相續スヘキ者ニシテ家政ヲ統理スルニ堪ヘサル正
當ノ理由アルトキハ米澤東京家政相談會ノ合議ニ付シ三分ノ
二以上ノ多數ニ依リ協賛ヲ經タル後親族會三分ノ二以上ノ同
意ヲ得テ家督相續ノ順序ヲ變更スルコトヲ得

第八條 家主嗣子ノ配偶者及他家ヨリ選定スル婿養子相續人ハ
華族ノ家ニ限ル但シ第四條第二十一ノ場合ニ於テ血縁者中ニ
就キ選定スル相續人及女子ハ此限ニ在ラス

第九條 家族中家督相續スヘキ者ノ外家族ノ籍ニ在ル間ハ配偶
ヲ許サス

第三章 家主

第十條 家主ハ財産ヲ享有シ家政ヲ統理ス

第十一條 家主ハ家政ニ關スル規則ヲ創定シ又ハ之ヲ改正ス

第十二條 家主ハ親族會員家政相談人及家令家扶家從ヲ囑託解
除ス

第十三條 家主ハ家政相談會又ハ家令家扶ニ諮問スルニ非サレ
ハ動産不動産ヲ賣買貸借シ又ハ賣買貸借ノ證人トナルコトヲ
得ス

第十四條 家主ノ遺言ニシテ家範ノ條規ニ違背シタルモノハ其
効ヲ有セス

第四章 後見人後見監督人家政攝理人

第十五條 後見人ハ被後見者ヲ輔佐シ家政ヲ攝理ス

第十六條 後見人ハ親族會及家政相談會ノ審議ヲ經テ親族又ハ

末家ヨリ之ヲ選定ス

第十七條 後見監督人ハ親族會及家政相談會ノ決議ニ依リ之ヲ置クコトヲ得

第十八條 後見監督人ハ親族末家又ハ家政相談人ヨリ之ヲ選定ス

第十九條 家政攝理人ハ家主久キニ亘ルノ故障アリ家事ヲ視ルコト能ハサル場合ニ於テ親族會及家政相談會ノ決議ニ依リ之ヲ置クコトヲ得

第二十條 家政攝理人ハ成年以上ノ嗣子ヲ以テ之ニ充ツ嗣子未成年ナルトキハ親族又ハ末家ヨリ之ヲ選定ス

第二十一條 後見人後見監督人及家政攝理人ノ權限ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 親族會家政相談會

第二十二條 親族會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 相續分家縁組離縁

二 後見人後見監督人家政攝理人ノ囑託解除

三 會議及第二十一條ノ權限ニ關スル規程

四 家主家族ノ身上ニ關スル重要事件

第二十三條 親族會員ハ親等ノ順序ニ拘ハラス親族又ハ末家ヨリ之ヲ選定ス

第二十四條 親族會員ハ家督相續ノ際之ヲ囑託ス但シ家主未成年中ハ前家主ノ定ムル所ニ依ル

家主未成年中會員ニ缺員ヲ生シ三名ニ滿タサルトキハ家政相談會ノ審議ヲ經テ之ヲ補フ

第二十五條 家政相談會ハ左ノ事項ヲ審議ス

一 諸規則ノ制定改廢及家範ニ關スル疑義ノ解釋

二 相續分家分産縁組離縁

三 後見人後見監督人家政攝理人家政相談人及家令家扶ノ囑託解除

四 歳出入豫算決算

五 動産不動産賣買讓與貸借交換變更ニ關スル重要事件

六 特別ノ賞與給助報酬寄附

七 基本財産第二類ノ利子支出ニ關スル事件

八 前數件ノ外重大ノ事件

第二十六條 家政相談會ハ家政相談人家令家扶ヲ以テ組織シ米澤及東京ニ之ヲ設ク

第二十七條 家政相談人ハ分家及舊米澤藩士民中ヨリ之ヲ選フ

第二十八條 親族會及家政相談會ハ家主之ヲ開ク

親族會ハ親族會員二名以上家政相談會ハ家政相談人三名以上ノ同意ヲ以テ開會ヲ請求スルトキハ開會スルモノトス

第二十九條 成年以上ノ嗣子ハ親族會及家政相談會ニ臨席シテ意見ヲ陳述ス但シ決議ノ數ニ加ハラス

第三十條 親族會及家政相談會兩會ノ議決ヲ要スルモノハ家政相談會ヲ先ニシ親族會ヲ後ニス

第三十一條 親族會員家政相談人ハ同時ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第三十二條 親族會及家政相談會ノ議事ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第六章 家令家扶家從

第三十三條 家令ハ家主ヲ輔佐シ家從以下ヲ指揮監督ス

第三十四條 家扶ノ任務ハ家令ニ亞ク

第三十五條 家從ハ家令家扶ノ指揮ヲ受ケ會計及庶務ヲ處辨ス

第三十六條 家令家扶ハ毎年度經費ノ豫算ヲ提出シ決算ヲ具申ス

家令家扶ハ毎年度各種財産ノ増減變更及收支決算ヲ具申ス

第三十七條 家令家扶家從ハ舊米澤藩士民中ヨリ之ヲ選フ

第三十八條 家令家扶家從ハ家主ヨリ動産不動産ヲ借受ルコト

ヲ得ス

第三十九條 家令家扶家從ハ政黨ニ加入スルコトヲ得ス

第四十條 家令家扶家從ハ家主ノ許可ヲ得ルニ非サレハ商業ヲ營ムコトヲ得ス

第四十一條 家令家扶家從ノ人員任務及給與ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 財産

第四十二條 財産ヲ分テ左ノ四種トス

第一種 傳承財産

第二種 基本財産

第三種 經費金

第四種 準備金

第四十三條 傳承財産ハ左ノ三類トス

第一類 祖宗傳來ノ什器寶物

第二類 祖宗傳來ノ家祿ヨリ成立シタル動産不動産

第三類 祖宗傳來ノ古金銀ヨリ成立シタル動産不動産

第四十四條 傳承財産ハ祖宗ニ承ケ子孫ニ傳フルモノナルヲ以テ永遠ニ保續ス

第四十五條 傳承財産第二類ノ收益ヲ以テ經費金トス

傳承財産第三類ノ收益ハ其元資ニ編入ス

傳承財産第三類ノ元資貳拾萬圓ニ達シタルトキハ毎年ノ收益

ヲ二分シ一ヲ傳承財産第二類一ヲ第三類ノ元資ニ編入ス

傳承財産第三類ノ元資五拾萬圓ニ達シタル後ハ毎年ノ收益ヲ

三分シ一ヲ傳承財産第二類一ヲ第三類一ヲ基本財産第一類ノ

元資ニ編入ス

第四十六條 基本財産ハ左ノ二類トス

第一類 傳承財産及基本財産第二類外ノ動産不動産

第二類 特別積立金ヨリ成立シタル動産不動産

第四十七條 基本財産ハ家政相談會ノ協賛ヲ經ルニ非サレハ支出スルコトヲ得ス

第四十八條 基本財産第一類ノ收益ヲ以テ準備金トス

基本財産第二類ノ收益ハ米澤地方公益費及慈惠金ニ充テ餘贏ハ其元資ニ編入ス

第四十九條 經費金ハ通常費臨時費ヲ支出シ餘贏ハ傳承財産第二類ノ元資ニ編入ス

第五十條 準備金ハ經費金ノ不足ヲ補充シ餘贏ハ基本財産第一類ノ元資ニ編入ス

第五十一條 基本財産及準備金ニ關スル細目ハ別ニ之ヲ定ム

第五十二條 動産ヲ以テ土地ニ換フルコトヲ得ルモ土地ヲ以テ動産ニ換フルコトヲ得ス

土地ノ所在又ハ種類ヲ變更スル爲メ交換賣却スルトキハ新ニ
所有スル土地ノ價格ハ舊ニ所有シタル土地ノ價格ニ比シテ減
少スルコトヲ得ス

第五十三條 投機射利ノ業ヲ爲スコトヲ禁ス

附則

第五十四條 將來此家範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要
アルニ方テハ米澤東京家政相談會ノ合議ニ付シ三分ノ二以上
ノ多數ニ依リ協賛ヲ經タル後親族會三分ノ二以上ノ同意ヲ得
テ之ヲ定ム但シ後見人家政攝理人ヲ置クノ間ハ此家範ノ條項
ヲ變更スルコトヲ得ス

家政條規

上杉家

家政條規

第一章 葬祭社寺

第一條 埋葬所ハ米澤御廟町所有墓地東京白金興禪寺墓地トス

第二條 寶塔ノ構造ハ祖宗ノ制度ニ踰越スヘカラス

第三條 年祭ハ其墳墓ノ在ル所ニ於テ之ヲ行フ

第四條 祖宗及先考先妣ノ年祭ハ家主自ラ之ヲ行フ

第五條 武尊公鷹山公ノ尊靈ハ上杉神社例祭ノ當日家庭ニ於テ

家主自ラ之ヲ祭ル

第六條 毎年八月祖先憲政公以前ノ尊靈ヲ法音寺ニ長尾家累代ノ靈魂ヲ林泉寺ニ於テ合祭ス

第七條 每年上杉神社ノ例祭ニハ榊料金貳拾五圓神酒參斗鹽鰯貳尾ヲ獻備ス

第八條 正統尊靈神式ノ年祭ニハ榊料金七拾五錢ヲ獻備シ祭案料金拾五圓ヲ其神官ニ回付ス

第九條 正統尊靈佛式ノ年祭ニハ香料金七拾五錢ヲ獻備シ祭案料金七圓ヲ其寺院ニ回付ス

閏系尊靈ノ年祭ニハ香料金五拾錢ヲ獻備シ祭案料ハ正統ノ半額トス

第十條 祖先憲政公以前ノ合祭ニハ香料及祭案料ハ正統ノ例ニ依リ長尾家累代ノ合祭ニハ閏系ノ例ニ依ル

第十一條 同年中數尊靈ノ年祭ニ相當スルトキハ之ヲ合祭シ香料及祭案料ヲ増加スルコトナシ但シ正統ノ尊靈ト閏系ノ尊靈トヲ合祭スルトキハ其香料及祭案料ハ正統ノ例ニ依ル

第十二條 同年中神式ト佛式トノ年祭ニ相當シ又ハ各地尊靈ノ

年祭ニ相當スルトキハ各個ニ祭式ヲ行フ

第十三條 高野山ニ分葬スル各尊靈ハ家主一代一度其地ニ詣リ合祭ヲ行ヒ香料金貳圓五拾錢ヲ獻備シ祭案料金五拾圓ヲ清淨心院ニ回付ス

第十四條 毎年社寺ヘ回付スヘキ供米仕向金ハ左表ノ如シ

社	寺	年	始	供	米	仕向金
上杉神社	五拾錢					
法音寺	五拾錢	貳拾	俵	百五拾圓		
興禪寺	五拾錢	拾	俵	七拾圓		
林泉寺	五拾錢	拾	俵	五拾圓		
清淨心院				參	圓	
雲祥院			壹	俵		

(妙心寺内元龜仙菴)

三十年四月廿日訂正

極樂寺	參拾錢	貳俵半五	圓
東北寺	壹俵半		
上善寺	壹俵		
本門寺	壹俵		
法泉寺	壹俵半五		圓
傳通院	壹俵		

第十五條 前條ノ供米ハ壹俵代金ヲ參圓ト定メ米價ノ昂低ニ因
リ變更スルコトナシ

供米代金及仕向金ハ毎年六月十二月之ヲ回付ス但シ供米代金
又ハ仕向金ノ一方ニ止マルモノハ歳首ニ之ヲ回付スヘシ

第十六條 法音寺興禪寺林泉寺靈屋ノ修繕ハ都テ當家ノ負擔ト
ス

三十年三月廿七日
六字削除

法音寺本堂倉庫庫裡ノ木羽葺本堂ノ雪圍雪卸休息所ノ疊替與
禪寺本堂休息所ノ修繕疊替及林泉寺本堂屋根洩差休息所ノ疊
替モ亦前項ニ同シ

第二章 後見人後見監督人家政攝理人

第十七條 後見人ハ家範及家政條規ニ基キ定款ヲ設ケ家令家扶
ニ委任執行セシメ之カ監督ヲ爲スニ止マルコトヲ得其定款ハ
家政相談會ニ諮問シテ之ヲ定ム

第十八條 後見人ハ其任務ニ就キタル後一ヶ月内ニ後見監督人、
家政相談人二名以上及家令家扶ノ立會ヲ以テ被後見者ノ財産
ヲ帳簿ニ照シテ調査シ立會人連署ノ確認證書ヲ親族會ニ提出
スヘシ

第十九條 後見人ハ財産管理上止ムヲ得サル場合ニ於テハ家政

相談會ノ審議ヲ經テ從來繼續ノ事業ヲ減縮若クハ解廢スルコトヲ得ルモ新ニ事業ヲ創設スルコトヲ得ス

第二十條 後見人ハ被後見者及家族幼者ノ教育方針ヲ選定變更スルトキハ親族會及家政相談會ニ諮問シテ之ヲ爲スヘシ

第二十一條 後見人ハ財産ノ利用方法ヲ變更セントスルトキハ家政相談會ニ諮問スヘシ

第二十二條 後見人ハ毎年經費ノ豫算各種財産ノ増減變更及收支決算ヲ家政相談會ニ付シ其審議ヲ經タル後之ヲ親族會ニ報告スヘシ

第二十三條 後見人ハ其任務中及任務終了ノ後未タ財産引渡ヲ終ラサル間ニ於テ自己若クハ他人ノ名ヲ以テ被後見者ノ權利及財産ヲ讓受又ハ借受ルコトヲ得ス但シ親族會及家政相談會

ノ承認ヲ經タルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 後見人ノ任務終了スルトキハ就任ノ時ト同様ノ手續ヲ以テ後任者又ハ家主ニ管理スル財産ヲ引渡スヘシ

第二十五條 前條ノ引渡ヲ終リタルトキハ立會人及後任者若クハ家主連署ヲ以テ之ヲ親族會ニ報告スヘシ

第二十六條 後見人ハ家範及家政條規ニ乖戾シ又ハ故意ノ所爲ニ因リ損害ヲ致シタルトキハ其責ニ任ス

第二十七條 後見監督人ハ後見人ノ任務上ニ付意見アレハ何時ニテモ家令家扶ニ通告シテ親族會又ハ家政相談會ヲ開クコトヲ求ムルヲ得

第二十八條 後見監督人ハ後見ノ開始及終了ノ際財産ノ調査ニ立會ヲ爲シ後見人ヨリ親族會ニ提出スル確認證書及引渡終了

報告書ニ連署スヘシ

第二十九條 後見監督人ハ毎年度ノ豫算決算各種財産ノ増減變更ヲ檢閲スヘシ

第三十條 後見監督人ハ家令家扶ノ立會ヲ以テ何時ニテモ什寶金穀及諸帳簿ヲ檢閲スルコトヲ得

第三十一條 後見監督人更迭アルトキハ後任者ノ選定ヲ待テ其任務ヲ引渡スヘシ若シ其任務當然ニ終了スルトキハ其任務ノ結果ヲ家主ニ報告スヘシ

第三十二條 家政攝理人ノ任務ニ關シテハ後見人ノ規程ヲ準用ス但シ成年ノ嗣子ニシテ家政攝理人タルトキハ第十八條第二十四條ノ手續ヲ爲スヲ要セス

第三章 親族會員家政相談人

第三十三條 親族會員ハ三名以上五名以下トス

第三十四條 親族會員ハ家主及家族ノ身上ニ關シ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ親族會ニ於テ審議シ訓誡ヲ加ヘ反正セシムルノ道ヲ盡スヘシ但シ家族ノ身上ニ關シテハ家主ニ陳告スルモノトス

第三十五條 親族會員ハ後見人又ハ家政攝理人ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ親族會ニ於テ審議シ家政相談會ノ同意ヲ得テ之ヲ改選ヲ行フヘシ

第三十六條 親族會員ハ家令家扶家從ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ親族會ニ於テ審議シ家主ニ陳告スヘシ

第三十七條 家政相談人ハ米澤東京各三名以上五名以下トス

第三十八條 家政相談人ハ毎月一回集會スルモノトス

第三十九條 家政相談人ハ後見人又ハ家政攝理人ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ家令家扶ニ通報シテ家政相談會ヲ開キ審議ノ結果ヲ親族會ニ報告スヘシ

第四十條 家政相談人ハ家令家扶家從ノ不當ノ行爲ヲ認ムルトキハ家主ニ具狀シテ相談會ヲ開キ審議ノ結果ヲ陳告スヘシ

第四十一條 親族會員及家政相談人ハ各三名以上ノ請求ニ因家主ノ承諾ヲ受ケ家令家扶ノ立會ヲ以テ何時ニテモ什寶及諸帳簿ヲ檢閲スルコトヲ得

第四章 親族會家政相談會

第四十二條 親族會長ハ親族會員ノ互選トシ家政相談會長ハ家政相談會員中ノ年長者トス

第四十三條 凡ソ議事ハ豫メ議按ヲ會員ニ回付シ然ル後開會ス

ルモノトス但シ緊急ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス

第四十四條 親族會及家政相談會ノ議事ハ協議ヲ以テ之ヲ決ス若シ協議調ハサルトキハ出席員ノ多數決ニ依ル可否同數ナルトキハ會長之ヲ決ス

第四十五條 家政相談會ノ議事ハ其事ノ起リタル甲地ニ於テ審議シ其決議書ニ理由ヲ付シ乙地相談會ニ回送スヘシ但シ決議書ニハ少數者ノ意見ヲ添付スルモノトス

家範第二十五條第五ハ金高三千圓以下第六第七ハ各金高三百圓以下及事ノ輕キ者ハ其事ノ起リタル地ノ相談會ノ審議ニ止ムルコトヲ得

第四十六條 乙地ノ意見甲地ノ意見ト相協ハサルトキハ其理由ヲ書シテ更ニ甲地ノ再議ニ付スヘシ

第四十七條 甲地再議ノ上尙ホ乙地ノ意見ト相協ハサルトキハ
又其理由ヲ書シテ乙地ノ再議ニ付スヘシ

第四十八條 甲乙兩地再議ヲ經ルモ尙ホ其意見相協ハサルトキ
ハ家主之ヲ決ス

前項ノ場合ニ於テハ家主ノ意見ニ由リ兩地合議會ヲ開クコト
アルヘシ

第四十九條 親族會ニ關スル事件ニシテ兩地家政相談會ノ意見
相協ハサルトキハ兩地ノ決議書ヲ其儘親族會ニ提出シ親族會
賛同ノ多數ニ依リ家主之ヲ決ス

第五十條 親族會ノ意見家政相談會ノ意見ト相協ハサルトキハ
兩會ノ交渉會ヲ開クヘシ尙ホ其意見相協ハサルトキハ家主之
ヲ決ス但シ交渉會長ハ親族會長ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條 相續若クハ後見人又ハ家政攝理人ニ關スル事件ハ

家範第二十二條第二十五條及前二條ノ手續ヲ經テ親族會長之
ヲ決ス

第五十二條 自己ノ利害ニ關スル議事ハ何人タリトモ其議席ニ
列スルコトヲ得ス

第五十三條 議定ノ事件ニシテ家主意見アルトキハ再議ニ付ス
ルコトアルヘシ

第五十四條 凡ソ議件ノ結果ハ其關係ノ各會員ニ報告スヘシ但
シ第四十五條第二項ノ場合ニ於テ一地方ノ審議ニ止マルモノ
ハ他ノ一方ニ報告スルモノトス

第五十五條 凡ソ決議書ハ出席員署名捺印シ結了ノ後決定ノ要
領ヲ記載シテ家主之ニ捺印スルモノトス

前項ノ決議書ハ之ヲ蒐輯シテ保存スヘシ

第五章 家令家扶家從附雇人

第五十六條 家令家扶家從ノ定員ハ左ノ如シ

一 家令 一人

二 家扶 二人

三 家從 四人以下

但シ時宜ニ因リ家令家扶ノ内一人ヲ置キ又ハ家扶二人ノ内一人ヲ置クコトヲ得

雇使ノ男女ハ定員ヲ設ケス時宜ニ因リ増減ス

第五十七條 家令家扶ハ家範ノ定ムル所ニ依リ囑託解除ス

第五十八條 家從ハ家令家扶ノ具申ニ依リ囑託解除ス

雇使ノ男女ハ家令家扶ノ具申ニ依リ採用又ハ解除ヲ命ス

第五十九條 家令家扶ハ家範第三十六條ニ依リ經費豫算ハ十一

月十五日限り決算ハ翌年一月二十日限り各種財産ノ増減變更及收支決算ハ翌年二月限り具申スヘシ

第六十條 家令家扶其任務ヲ後任者ニ授受スルトキハ其管掌スル所ノ各種財産及寶物ヲ簿冊ト共ニ引渡シ前任者後任者連署ヲ以テ引渡終了ノ旨ヲ具申スヘシ

第六十一條 家令家扶ハ事ノ必要ニ因リ何時ニテモ親族會又ハ家政相談會ノ開會ヲ請求スルコトヲ得

第六十二條 家令家扶職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シタル行爲アルカ又ハ自己ノ體面ヲ辱メタル行爲アルトキハ家政相談會ノ審議ヲ經テ之ヲ解除ス

第六十三條 家從ニシテ前條ノ行爲アルトキハ家令家扶ノ具申

三十二年三月廿八日
改正追加

ニ因リ之ヲ解除ス但シ事情疑ハシキモノハ家政相談會ニ諮問
シテ審議セシムルモノトス

第六十四條 家令家扶家從禁錮以上ノ處刑又ハ家資分散ノ宣告
ヲ受ケタルトキハ家政相談會ノ審議ヲ經ス直ニ之ヲ解除ス

第六章 俸給

第六十五條 家令以下ノ俸給ハ左表ニ依リ之ヲ給ス

役名	家令	家扶	家從	雇
月俸	參拾圓	貳拾五圓	拾圓以上 拾圓以下	拾圓以下

第六十六條 俸給ハ毎月二十六日ニ之ヲ給ス

第六十七條 俸給ヲ受ル者私ノ事故ニ因リ缺勤三十日ヲ超ユル
トキハ俸給ノ半額ヲ減ス

第六十八條 就職解職増俸減俸ノ月ハ日割ヲ以テ之ヲ給ス

第六十九條 解職後事務引繼ヲ終ル迄ハ在職ノ俸給ヲ給ス
第七十條 在職中死亡シタルトキハ其月ノ俸給全額ヲ給ス

第七章 手當

第七十一條 家令家扶家從役女女中ニ東京定府又ハ米澤常住ヲ
命シタルトキハ家令家扶ニ金百五拾圓家從ニ金百圓役女女中
ニ金參拾圓ノ手當ヲ給ス

第七十二條 家從役女女中ニ東京交代勤ヲ命シタルトキハ金六
圓ノ手當ヲ給ス

三十二年三月廿八日
改正
三十二年四月十五日
但書追加

第七十三條 家令家扶家從東京定府又ハ家從東京交代勤中ハ其
月俸同額ノ手當ヲ給ス
第七十四條 家令家扶家從東京定府中ハ屋舎ヲ給ス
第七十五條 東京定府又ハ米澤常住ヲ命シタル家令家扶家從役

女女中當家ノ都合ヲ以テ解職若クハ定府常住ヲ解キ歸郷又ハ
他府縣ニ轉住スルトキハ家令家扶ニ金百圓家從ニ金七拾圓役
女女中ニ金拾圓ノ手當ヲ給ス
老衰病氣婚嫁養親等止ムヲ得サル事故ニ因リ自ラ其職ヲ辭ス
ル者モ亦前項ニ同シ

第七十六條 東京居住者ニ家令家扶家從ヲ命シ本邸ニ居住ナシ
ムルトキハ家令家扶ニ金參拾圓家從ニ金貳拾圓ノ手當ヲ給ス
其本邸居住ヲ解キタルトキモ亦同シ

第七十七條 東京定府米澤常住又ハ東京本邸居住勤ノ者死亡シ
タルトキハ前二條ノ例ニ依リ其手當ヲ遺族ニ給ス

第七十八條 職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シ
タル行爲アリテ解職ヲ命シタルトキハ第七十五條第七十六條

ノ手當ヲ給セス

第八章 旅費

第七十九條 家令以下當家ノ用向ヲ以テ旅行スルトキハ順路ニ
依リ左表ニ照シ車馬賃日當ヲ給ス

置賜三郡内車馬賃日當表

役名	汽車每一哩	陸路每一里	日當	隨從日當
家令	參	拾	七	拾
家從	貳	八	五	拾
役女中	貳	八	五	拾
家下丁	壹	五	參	拾

置賜三郡外車馬賃日當表

役名	汽車每一哩	汽船每一海里	陸路每一里	日當	隨從日當
家令	五	五	拾貳	壹圓貳拾錢	五拾錢
家從	五	五	拾貳	壹圓貳拾錢	五拾錢

三十一年四月
改正

三十一年二月廿七日
制定

三十二年三月廿六日
但書追加

三十二年四月十日
改正

三十二年四月十日
改正

家從	女役 中女	以家 下丁
參錢	參錢	貳錢
拾五錢	拾五錢	貳錢
七拾錢	七拾錢	五拾錢
參拾錢	貳拾錢	拾錢
七拾錢	七拾錢	五拾錢

第八十條 但書中流産行滞在三十日以上ハ日當ノ半額ヲ減ス
急用ヲ以テ晝夜兼行スルトキハ陸路ニ限り車馬賃ヲ

表記ノ二倍トス

第八十一條 往復二里未滿ハ車馬賃日當ヲ給セス但シ宿泊ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第八十二條 宿泊ヲ要セサル隨從旅行ハ日當ヲ給セス

第八十三條 家令家扶家從役女女中家主ノ代理又ハ急使若クハ往復二里以上六里未滿ノ地へ出張シ宿泊ヲ要セサルトキハ實費ノ車馬賃ヲ給シ食時ニ係ルトキハ食料金貳拾錢ヲ給ス但シ家丁以下ハ食料金拾錢ヲ給シ急使ノ外ハ車馬賃ヲ給セス

三十二年二月廿七日
削除

三十二年四月十日
改正

第八十四條 東京本邸ヨリ横濱所有地ニ係ル用向ヲ以テ其地ニ出張スルトキハ置賜三郡内ノ例ニ依ル

第八十五條 東京本邸ヨリ濱町所有地ニ係ル用向ヲ以テ其地ニ出張スルトキハ食料及車馬賃一回金貳拾五錢ヲ給ス

第八十六條 家政相談人當家ノ用向ヲ以テ旅行スルトキハ第七十九條ノ規程ニ依リ家令家扶ノ車馬賃ヲ給シ日當ヲ二倍トス

第八十七條 家令家扶家從役女女中休職若クハ解職トナリ歸郷又ハ他府縣ニ轉住スルトキハ在職相當ノ車馬賃日當ヲ給ス

第八十八條 家令家扶家從役女女中在職中死亡シタルトキハ在職相當ノ車馬賃日當ヲ其遺族ニ給ス

第九章 休職

第八十九條 家令家扶家從當家ノ都合其他疾病等止ムヲ得サル

ノ事故アルニ於テハ休職ヲ命スヘシ

第九十條 休職年期ハ滿三年トス期滿レハ其職ヲ解除ス

第九十一條 休職中ノ俸給ハ現俸三分ノ一トス

第九十二條 休職員ハ家主ノ許可ヲ得テ市町村吏員及學校病院

諸會社ノ業務ニ從事シ之カ役員トナルコトヲ得

第九十三條 休職員ハ當家ノ都合ニ因リ復職セシムルコトアル
ヘシ

第十章 慰勞金報勞米遺族扶助米

第九十四條 家令家扶家從役女退職シタルトキハ慰勞金ヲ給ス
但シ在職中死亡シタルトキハ之ヲ其遺族ニ給ス

第九十五條 慰勞金ハ在職中毎年各人ノ月俸二ヶ月分ニ當ル金
額ヲ積立元利ヲ合セテ之ヲ給ス其積立方法ハ第十三章ニ依ル

但シ休職中ノ者ハ休職俸額ニ依ル

第九十六條 家令家扶家從役女左ニ定ムル年數ヲ勤務シ年齡六
十歳ヲ超ヘテ退職シタルトキハ終身報勞米ヲ給ス

一 家令 滿七年

二 家扶 滿十年

三 家從役女 滿十五年

家令ハ滿十年以上家扶ハ滿十三年以上家從役女ハ滿二十年以
上勤務シ自己ノ勝手ニアラスシテ解職シタルトキハ年齡ニ拘
ハラサルモノトス

第九十七條 家從ヨリ家扶ニ進ミ家扶ヨリ家令ニ進ミタルトキ
ハ前職ノ年數ヲ通算シ現職相當ノ報勞米ヲ給ス

第九十八條 勤務年數ノ計算ハ初任ノ月ニ始マリ退職ノ月ニ終

ル但シ明治四年七月廢藩以前ノ年數ハ算入セス

第九十九條 左ニ掲クルモノハ勤務年數ニ算入ス

一 退職ノ後再ヒ就職シタル者ハ前奉職中ノ年月

二 休職中ノ年月

三 女中勤務中ノ年月

第百條 報勞米ノ定額ハ左ノ如シ

一 家令 十人扶持

二 家扶 七人扶持

三 家從 五人扶持

四 役女 二人扶持

但シ一人扶持ハ一ヶ月玄米一斗五升トス

第百一條 報勞米ノ支給ハ退職ノ翌月ニ始リ死亡ノ月ニ終ル

第百二條 報勞米ハ六月十二月ニ之ヲ給ス但シ給米ハ六月十五

日十二月十五日米澤市街平均相場ノ穀代金ヲ以テ給スルモノ

トス

第百三條 第九十六條ノ報勞米ヲ受クヘキ年數ヲ超ヘタルトキ

ハ滿一年毎ニ各一人扶持ニ付三升ヲ加フ

第百四條 報勞米ヲ受ケタル者再ヒ報勞米ヲ受クヘキ職ニ就キ

タルトキハ其勤務中報勞米ノ給與ヲ止ム

再ヒ報勞米ヲ受クヘキ職ニ就キタル者退職現時ノ職務前後相

同シカラサルトキハ前職ノ年數ヲ後職ノ年數ニ通算シ後職ニ

對スル報勞米額ト前職ノ報勞米額トヲ比較シ其多キ方ヲ給ス

但シ退職現時ノ職務前後相同シキトキハ後職滿一年毎ニ前條

ノ増加扶持ヲ給ス

第百五條 第九十六條ノ報勞米ヲ受ケ又ハ受クヘキ在職ノ者ニシテ死亡シタルトキハ左ニ定ムル扶助米ヲ其遺族ニ給ス

一 家令 三人扶持

二 家扶 二人扶持

三 家從 一人扶持

第百六條 遺族扶助米ヲ給スル順序ハ左ノ如シ

一 寡婦

二 未成年ノ孤兒

三 父母

四 祖父母

第百七條 家令家扶家從役女當家ノ爲メニ傷痕若クハ疾病ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ニシテ退職ヲ許シ

タルトキハ年齢及勤務年數ニ拘ハラズ終身現職相當ノ報勞米ヲ給ス但シ報勞米ヲ受クヘキ者ニシテ本條ノ場合ニ方リタルトキハ現職相當ノ報勞米ニ一人扶持以上三人扶持以下ヲ増給スルコトヲ得

第百八條 家令家扶家從當家ノ爲メニ死ヲ致シタルトキハ年齢及勤務年數ニ拘ハラズ第百條ニ定メタル報勞米ヲ第百六條ノ順序ニ依リ扶助米トシテ其遺族ニ給ス

第百九條 役女ニシテ前條ノ場合ニ方リ其他ノ雇人ニシテ前二條ノ場合ニ方リタルトキハ家政相談會ノ審議ニ付シ一時金ヲ給ス

第百十條 報勞米又ハ遺族扶助米ヲ給スルトキハ家主ノ記名調印シタル證書ヲ付與ス

第百十一條 職務ニ對シ不正ノ行為アルカ若クハ家範ニ違背シタル行為アルカ又ハ破廉耻ノ行為アリテ處刑セラレ爲メニ解職ヲ命シタルトキハ慰勞金及報勞米ヲ給セス

第百十二條 報勞米ヲ受ケタル後破廉耻ノ所爲アリテ處刑セラレタルトキハ其支給ヲ廢止ス但シ遺族扶助米ヲ受ケタル者本條ノ場合ニ方リタルトキモ亦同シ

第百十三條 報勞米及遺族扶助米證書ハ賣買讓與質入書入スルコトヲ許サス

第十一章 祭染料

第百十四條 家令以下死亡シタルトキハ左表ニ依リ祭染料ヲ付與ス

役名	家	令家	扶	役家	女從	雇
----	---	----	---	----	----	---

金額	參拾圓	貳拾五圓	拾五圓	拾圓以下
----	-----	------	-----	------

第百十五條 家令以下父母妻嗣子死亡シタルトキハ左表ニ依リ弔慰料ヲ付與ス

役名	家令	家扶	役家	女從	雇
金額	五圓	參圓五拾錢	貳圓五拾錢	貳圓以下	

第百十六條 家令以下家族及實家ノ父母死亡シタルトキハ前條定ムル所ノ半額ヲ付與ス

第百十七條 家令家扶家從役女解職ノ後死亡シタルトキハ左表ニ依リ祭染料ヲ付與ス

元役名	家	令家	扶	役家	女從
金額	貳拾圓	拾五圓	拾圓	拾圓	

第百十八條 家政相談人ハ家令ニ準ス但シ解任者ハ前條ノ例ニ

依ル

第百十九條 職務ニ對シ不正ノ行爲アルカ若クハ家範ニ違背シタル行爲アルカ又ハ破廉耻ノ所爲アリテ處刑セラレ爲メニ解職ヲ命シタル者ニハ祭染料ヲ付與セス

第十二章 基本財産準備金

第二十條 基本財産第一類ヲ分テ甲乙二種トス

第百二十一條 甲種基本財産ノ收益ヲ第一準備金トシ乙種基本財産ノ收益ヲ第二準備金トス

第百二十二條 基本準備金ハ經費金ノ不足ヲ補充シ尙ホ足ラサルトキハ甲種基本財産ヲ支出スルコトヲ得但シ第百二十三條ノ場合ハ本條ノ限ニ在ラス

第百二十三條 第二準備金ハ左ノ場合ニ於テ支出シ尙ホ足ラサ

ルトキハ乙種基本財産ヲ支出スルコトヲ得

一 縁組分家分産

二 喪事

三 邸宅購入新築

四 外國在勤留學

五 國難

六 一時ニ參千圓以上ヲ要スル臨時支出

第百二十四條 前二條ノ支出ハ家政相談會ノ審議ヲ經テ其額ヲ定ム

第百二十五條 第一準備金第二準備金ノ餘贏ハ年末ニ至リ各其元資ニ編入ス

第百二十六條 家範第五章第二十五條第五第六ノ事件ハ家政相

談會ノ審議ヲ經テ條件ヲ付シ家令家扶又ハ家政相談人ノ中一名若クハ二名以上ニ委任スルコトヲ得

第十三章 積金

第二百二十七條 出生ノ子アルトキハ其都度積金ヲ爲シ成長ノ後縁組分家分産ノ時ノ費途ニ充ツ但シ嫡長子孫ハ本條ノ限ニ在ラス

第二百二十八條 前條ノ積金ハ出生ノ年ヨリ毎年末一人ニ付金貳百圓ツ、ヲ第二準備金ヨリ支出シ滿十五年ニ至テ止ム

第二百二十九條 第十章第九十五條ノ積立金ハ毎年末ニ經費金ヨリ支出ス但シ勤務一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ計算スルモノトス

第二百三十條 積金ハ都テ國債券ニ換ヘ利子ハ其元資ニ積算ス

第二百三十一條 毎年末ニ積金ノ元利ヲ計算シ各個ノ配當額ヲ定ム

第二百三十二條 第二百二十八條ノ積立年限ヲ經過スルモ第二百三十條ノ例ニ依リ利子ヲ元資ニ積算シ滿二十年ニ至テ止ム但シ滿期後ノ利子ハ乙種基本財産ニ編入ス

第二百三十三條 積金ヲ受クヘキ家族ニシテ死亡シタルトキハ其配當額ヲ乙種基本財産ニ編入ス

第二百三十四條 家令家扶家從役女ニシテ第二百一十一條ニ當リタル者アルトキハ其配當額ヲ甲種基本財産ニ編入ス

附 則

第二百三十五條 家範創設ニ關シタル會議員ハ家政相談人ヲ囑託スルモノトス但シ第三章第三十七條ノ定員ニ超ユルモ妨ケナ

シ

第三百三十六條 元商合資會社資本金ハ該會社解散ノトキニ至レハ甲種基本財産ニ編入スルモノトス

第三百三十七條 第十三章第三百三十條ノ國債券ニ換フル積金ハ當分ノ内元商合資會社ニ預ケ置クヘシ

第三百三十八條 家範實施前ニ出生ノ子ハ家範實施ノ日ヨリ第十三章ヲ適用ス但シ家範實施ノ年ヲ以テ積立ノ初年トス



